

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	13	学校名		県立小瀬高等学校				課程	全日制		学校長名		菌部 卓也				
教頭名	鴨志田 剛			幸川 秀策							事務（室）長名		佐々木 理央				
教職員数	教諭	19	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	4	計	41
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		13	7	12	8	24	11			49	26	3				
	科																
	科																

2 目指す学校像

●共有した教育理念 生徒を主語にした教育 伴走者としての関わり 安心安全な場で行う教育 小ささを強みに 地域と共に歩む教育 地域と学校が Win-Win の協働 ◆目指す生徒像 ・自分を大切にする人（自分を肯定的に捉える、自己調整する、自分の幸せに向かう） ・他者とつながる人（自分の考えを伝える、相手の話を受け止める、他者と協働する） ・地域・社会に関わる人（社会的な課題に関する知識・理解、見通しを立てて行動する、挑戦し振り返る）
--

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） 地域活動のリーダーとして地域に貢献し社会で活躍できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） 人間関係能力の育成を図るとともに、コース選択を取り入れた教育活動による幅広い進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） 人とのつながりや地域の絆を大切にしながら、主体的に生きようとする生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・入学段階で基礎学力の定着に課題がある生徒が多い。 ・義務教育段階の基礎的な学習内容を確実に定着させるとともに学習意欲を高め、高等学校の授業に円滑に移行させる指導をする必要がある。	・基礎学力の向上及び I C T 活用の推進 ・家庭学習の定着 ・魅力ある授業展開の工夫 ・個に応じた指導の工夫と探究的な学びの充実
進路支援	・3年間を見通した計画を立て、進学、就職ともに3月末まできめ細かな指導を行った。就職内定率は21年連続進路決定率100%を達成した。	・進路意識の高揚 ・早期からの進路に対する準備 ・希望する進路の実現
生徒支援	・落ち着いた環境のなかで学校生活を送ることができている。 ・交通安全教室やメディア教育講演会等を通して、交通事故の未然防止や通信機器の適切な使い方への意識高揚に努めている。 ・特別な配慮や支援を必要とする生徒が増加傾向にあり、組織的な取組やサポートが必要である。	・基本的な生活習慣の育成 ・外部機関を活用した適切な支援 ・交通ルールやマナー遵守の意識向上 ・情報端末活用上のモラルとルールの徹底
特別活動	・生徒数減少に伴い、部活動の在り方や放課後時間の使い方などを検討している。 ・体育祭を縦割りにするなど、生徒数や状況にあわせて学校行事に工夫をしている。 ・地域や外部とのつながりを活かした学校行事や探究活動を実践している。	・部活動の在り方を検討 ・学校行事運営とリーダーシップの育成 ・キャリア・パスポートの活用
中高一貫教育	・連携型中高一貫教育の取組の活性化を図るため、各委員会において、教職員の連携を密にして交流事業の充実を図っている。	・中高交流授業の充実・改善 ・生徒交流事業の充実と地域貢献活動の充実 ・相互授業参観による教員交流の充実
働き方改革	・定時退勤日の設定、会議の効率化、退勤時間の声かけ等、目に見える形での改革を進めることができた。 ・働き方改革の視点で、I C T の活用を含め業務の精選等を今後も検討する必要がある。	・定時退勤日等の働き方改革の施策の安定運用 ・業務の適正化 ・カリキュラム・マネジメントの充実 ・ワークライフバランスの実現に向けた職場全体での取り組み

5 中期的目標

- 高い授業力を基に、生徒の基礎学力の定着と向上をはかり、自ら成長しようとする意志をもたせる。
- 目的に応じて I C T を活用することで、教職員の働き方を改善し、生徒の学びの充実を図る。
- 「総合的な探究の時間」を中心に各教科等で、主体的な学び、探究的な学びを充実させる。
- 個々の生徒に応じた支援を充実させ、生徒の進路希望を 1 0 0 % 実現させる。
- あいさつを励行し、規範意識を醸成する。
- 生徒会や部活動の自主的な運営を支援し、主体的に生きる力を育成する。
- 明峰中学校と新たな中高連携を模索し、地域の子どもを育み、地域と共にある学校づくりを推進する。
- 情報発信・広報を効果的かつ積極的に行い、本校の認知度を高め、志願者確保につなげる。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導・学習指導 ・学習指導の工夫と充実 ・体験的・探究的な学びの充実 ・小規模化に対応した教育活動の充実 ・I C T 活用の推進	・日々の授業において、生徒の観点別学習状況を評価し、その結果を生徒の学習改善、教員の指導改善につなげ、学習指導の質の向上を図る。 ・「総合的な探究の時間」を中心に各教科等で体験的な学び・探究的な学びを多く取り入れて、生徒の主体的な学びを支援する。 ・生徒が各種技能審査等に挑戦し、合格できるように指導する。 ・タブレットや電子黒板の活用を推進するとともに、オンラインを含め授業の進め方など、I C T の活用を研究し、授業力の向上を図る。
授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・「生徒による授業評価」の観点のうち、「授業満足度」の平均値 3. 5 以上を目指す。
進路支援 ・希望進路の実現 ・体験的な学習の充実	・多様な生徒に応じた支援をすることで、多様な生徒の進路希望を 1 0 0 % 実現させる。 ・キャンパス見学、企業見学、インターンシップなどの体験的な学習を通して、進学や就職への理解を深めながら、社会に適応できる力を育む。
生徒支援 ・基本的生活習慣と生活態度の確立 ・問題行動の未然防止、早期発見と早期対応 ・交通事故の未然防止、交通マナーの徹底 ・生徒に居場所のある学校づくり ・安全・安心な学校づくり	・あいさつを励行し、規範意識を醸成する。 ・成人年齢引き下げの時代にあった市民教育や主体性の育成に努める。 ・キャリア教育の視点を踏まえた生徒指導の推進を図る。 ・生徒支援を軸にした、柔らかな生徒指導の充実と対応に努める。 ・S C、S S W 等と連携した生徒支援の充実。
特別活動	・生徒会や部活動において生徒の自主的な運営を支援し、主体的に生きる力や社会参

別紙様式 1 (高)

・生徒の主体性の育成 ・探究的な学びの推進 ・学校行事や部活動における柔軟な工夫	画意識の醸成を図る。 ・社会で必要とされるスキルの育成、一人一人のキャリア形成と自己実現のためのキャリア・パスポートを活用したキャリア教育の視点を踏まえた探究的な学びを推進する。
連携型中高一貫教育 ・連携型中高一貫教育の推進	・明峰中学校との継続的・計画的な中高連携を模索し、地域の子どもを育み、地域と共にある学校づくりを推進する。 ・情報発信・広報活動を積極的かつ効率的に行うことで、本校の認知度を高め、志願者確保につなげる。
働き方改革 ・働き方改革の推進 ・業務の適正化と組織内部の効率性の向上	・週一回実施の授業後下校・定時退勤の実施とともに、各自が業務の質を保ちつつ効率化の工夫の継続を図る。 ・業務の適正化を図り組織内の連携を機能させ、効率性・生産性を高めるカリキュラム・マネジメントの充実を図る。 ・時差出勤や休暇取得を促進するなど、ワークライフバランスを意識した取り組みを推進する。